

暑中お見舞い申し上げます

今年は特に暑い毎日が続きますが、いかがお過ごしでしょうか。

A.T.Networkは8月1日をもって創立から10年めに入りました。渋谷に事務所を構えて7年になります。

今年は年明け早々に、世界劇場会議のパネラーとして、またJATEETフォーラムの司会としてなど、公の場でプレゼンテーションの機会を得ることができ、積極的な活動の年がスタートしました。

これまでの多くの経験を活かして、地域・社会に浸透する劇場・ホールの実践に、さらに積極的に取り組んでいこうと考えております。

A.T.Network 代表 近江哲朗

置賜広域文化施設・竣工 空気浮上式能舞台の実現

山形県・米沢市、上杉神社のほぼ正面という理想的な環境に建設が進められてきた「置賜広域文化施設」が、8月1日に竣工・引渡しとなりました。この施設は可動式の能舞台を持ち、空気浮上方式にて約40tの能舞台を舞台からエントランスホールへと移動可能としました。能楽の公演時にはより能楽堂らしく、そして通常の多目的ホールとしての利用時には能舞台は展示品として、常に機能する能舞台を実現しました。

レール+車輪による移動式能舞台は国内で既に実施されている例がありますが、空気浮上方式を用いて、回転移動させることの可能な能舞台は実施第1号です。この移動システムを実現するにあたっては、慎重かつ大胆な検討が求められ、非常に多くのエネルギーを費やした結果、良好な動作が実現でき満足できるものとなりました。

博物館と一体となったこの施設は、9月28日に金剛流の能楽公演とともに開館記念シリーズが始まります。

データシート 客席数：502席（能舞台使用時554席） ホール：プロセニウム形式
発注者：山形県（劇場）、米沢市（博物館） 設計者：関・空間設計

劇場・ホールのリニューアル JATEET調査研究活動から

昨年夏、リニューアルオープンした熊本市市民会館の改修工事では特に多くの経験ができ、同時に進行していたJATEET調査研究活動が「劇場・ホールの改修に関する調査」であったため、昨年から今年にかけて劇場・ホールのリニューアルについては非常に多くの研究成果が挙げられようとしています。

特に劇場・ホールについては、舞台芸術を支える場として時代のニーズや発展的な舞台づくりのために、機能向上・機能改善といった種類の改修が求められる筈ですが、現状はなかなかそのような状況にはなっておらず、特に目に付く不具合を直す感覚での修繕・更新に留まっている事例が多く見受けられました。

しかし、近年の劇場・ホールのリニューアルには、熊本市市民会館を含め機能向上・機能改善に対して前向きな改修を行う事例も少しずつですが増えつつあり、必要な第1歩は痩せた体力を骨太に改修することから始まるべきであると痛感している状況です。JATEET調査研究活動は来年3月まで続きます。

ディテールシート進行中

数年前から、やるぞやるぞと言い続けてきたディテールシートを徐々に作成中です。まだまだサンプル数が不足していますが、今後充実させてゆく予定です。

楽屋化粧台廻り・大道具搬入口廻り・ピアノ庫廻り、などから作成を始めています。

八千代座・平成大修理完了

「平成大修理」と呼ばれた、熊本県山鹿市の八千代座の改修が完了しその姿を公開しました。補強を加えながら、一度分解した柱・梁・仕上げのパーツを元通りに組み上げ、建設当時の面影を復元しながら骨太に体力増強を図った改修でした。

昨年まで熊本県内での仕事があったため、暇を見つけて2度改修の途中を見届けてきました。特に舞台のスノコを木製のまま残して、その上に新たに鉄骨製のスノコが新設されているところなど、重要文化財に指定された劇場改修のデリケートさを強く感じました。

編集後記

「市民参加」に対応するためには、とても大きなエネルギーが必要とされます。想像以上に体力勝負的な感覚を覚えています。ひたすら良い結果を祈りながら。

夏期休暇のご案内・他

・夏期休暇・・・8月13日～15日

8月以降も現場・打合せなどのために出張、留守となる日があります。悪しからず、ご了承願います。